

選手として、父親として、子どもたちのお手本でありたい。



中村友也さん

Tomoya Nakamura

なかむら

ともや

プロバスケットボール選手

大田区を拠点とするプロバスケットボールチーム、「アースフレンズ東京Z」に所属する中村友也さん。スポーツマンとして、チームの一員として、また、2人のお子さんの父親として、大切にしていることをうかがいました。

Profile

昭和58年2月4日生まれ。大阪市淀川区出身。bjリーグの様々なチームで活躍し、平成28年からアースフレンズ東京Zに所属。ポジションはパワー・フォワード。2女の父親。

子ども時代やバスケットボールとの出会いについて教えてください。

子どもの頃、実を言えば、スポーツは少し苦手なくらいで、お菓子づくりや習字の方が好きでした。一方、目立ちたがりやでやんちゃな一面もありました。クラスに一人はいる、冬でも元気に半ズボンで登校してくるタイプでした(笑)。バスケットボール(以下「バスケ」と)の出会いには中学生。当時、大流行していた有名漫画の影響もあり、友人に誘われて入部しました。でも、当時は部活よりも生徒会活動のほうに夢中でした。1年生の時に副会長、2年生と3年生の時に会長を務め、今では珍しくないことですが、アレルギー対応の献立を給食に導入したり、車椅子に対応するためにエレベーターの設置を嘆願したり、周囲を巻き込んで学校を変えていきたいという思いが強かったです。

プロの選手になるまでの経緯を教えてください。

中学校卒業後、「まあまあ強い高校だから」と顧問に勧められるままに、大阪府立東住吉工業高校へ進学しました。ところが、そこは実はインターハイ常連の強豪校だったのです。がむしゃらに練習する日々を過ごす中、どんなバスケにのめり込んでいました。高校卒業後は、監督の「関東へ行ってこい」の一言が決め手となって、全国から優秀な選手が集まる中央大学へ進みました。当時、バスケのプロリーグはまだなくて、将来どうするのか迷っていましたが、料理をするのが好きだったので、自分のお店を開きたいなとも思っていました。そんなタイミングでbjリーグが発足することを知り、バスケを続けたいという気持ちが強くなってきました。そこで、落ちたらバスケをやめる覚悟で選考へ応募し

